

活動内容

1. 緩和ケア回診

毎月2回、第2・4木曜日に回診を行います。
そのうち1回は緩和ケア専門医も含めた回診も行っています。病棟より介入依頼のあった患者さまを対象に、継続的に患者さまの話聞き、スタッフから情報収集し、内服調整や症状評価などを行いながら症状緩和に取り組んでいます。



2. 勉強会

年4回、緩和ケア介入患者さまの中から、事例検討会を実施しています。
医師、看護師、薬剤師、リハビリスタッフ、管理栄養士、介護福祉士など多職種が参加し、緩和ケア専門医からのアドバイスを受けながら、緩和ケアのレベルアップを目指しています。



緩和医療専門医 神谷 浩平 医師



入院のご案内
山形ロイヤル病院
緩和
ケアチーム

よくあるご質問

Q1
入院するにはどうしたらいいですか？

A1
医療福祉相談室の社会福祉士が窓口となっております。お気軽にお問合せください。

Q2
外出や外泊をすることはできますか？

A2
可能ですが感染状況や主治医の判断で出来ないケースもありますのでご了承ください。

IMS(イムス)グループ 医療法人財団 明理会
山形ロイヤル病院

〒999-3712 山形県東根市大森二丁目3番6号

TEL 0237-42-8226 (直通)

- 山形ロイヤル訪問看護ステーション
- 居宅介護支援事業所
- 訪問リハビリテーション
- 通所リハビリテーション



療養病棟 322床

内科/リハビリテーション科



緩和ケアチームの発足

緩和ケアとは、病気の進行度に関係なく、身体的苦痛、精神的苦痛や社会的苦痛、スピリチュアルペインなどの全人的苦痛の緩和に焦点をあてることであり、多職種によるチームで行われることも特徴のひとつです。当院の入院患者さまの約7割は、80～90代と高齢であり、ガン患者だけでなく、複数の慢性疾患を抱えた患者さまに対しても、「緩和ケア」を提供し、穏やかな日常生活を送っていただくことを目的に、2022年7月、緩和ケア委員会を発足しました。医師、看護師、薬剤師、リハビリスタッフ、管理栄養士、社会福祉士、介護福祉士が参加し、多職種で連携しております。また本人の意思を第一に尊重し、ご家族の気持ちにも寄り添う緩和ケアを目指して活動しております。



内科医 門田 荘一郎 医師

多職種連携

チームスタッフ

- 医師 ● 看護師
- 精神保健福祉士 ● 社会福祉士
- 薬剤師 ● 管理栄養士 ● 介護福祉士

がんリハビリ専門スタッフ

理学療法士 5名・作業療法士 1名
言語聴覚士^{NEW}(10月より参加)



看護師

ガンや心不全、呼吸不全など慢性疾患で終末期にある患者さま（ご家族も含む）に対して、緩和ケアチームと連携し、少しでも穏やかに入院生活や在宅復帰ができることを目指しケアにあたっています。



薬剤師

患者さまの持病に関連して生じるさまざまなつらさに対して、それぞれの患者さまに合ったお薬の提案を行っています。また薬剤管理指導業務では、処方されたお薬の効果の確認・薬の飲み合わせの確認・副作用の予防・早期発見に努めています。



自宅でもサポートします

自宅に帰っても、当院訪問看護ステーションの看護師、訪問リハビリスタッフが伺い支援をつなぎます。また病状が不安な時は、当院への再入院も可能です。



管理栄養士

病態や症状、食事の摂取状況は一人ひとり異なるため、個々に応じた栄養管理を行う必要があります。食事は治療の一環であると共に、「楽しみ」でもあります。患者さまとお話ししながら食事量や食事形態等を調整させていただき、一口でも食べられるような食支援を行っています。日々変わる体調の変化を多職種で共有し全身状態に合わせた栄養管理を行います。



食事対応の内容例

食欲がなく食べることが負担 ▼

通常の食事では量が多いと感じる方には、1/2量・1/4量に食事量を調整して提供

数口しか食べられない ▼

少量でしっかり栄養が補給できる栄養補助食品を提供

さっぱりしたものなら食べられそう ▼

主食に冷たいそうめんを提供



【常菜食】

【ソフト食】

理学療法士・作業療法士・言語聴覚士

ガンの進行により生じる筋力低下や体力の低下など様々な障害が起こることがあります。その影響で、日常生活動作に制限が生じQOL(生活の質)の低下をきたすことがあります。リハビリではこれらの問題に対して二次的障害を予防し、機能や生活能力の維持、改善を図っていきます。また価値観やその人らしさを尊重しながら、寄り添ったリハビリを提供していきます。



リハビリの内容例



- 疼痛緩和（ポジショニングによる褥瘡予防、福祉用具や補装具による代替方法）
- 呼吸苦の緩和（呼吸リハ、自己排痰方法指導、呼吸補助筋リラクゼーション、安楽肢位）
- 心理支持（日常会話や訪室の実施、創作活動、リハビリができていくという精神的援助）
- 患者個人・家族に焦点をあてたアプローチを実施する
- 価値観、今後どのように過ごしたいか、生活背景、家庭内役割、環境などを聴取し、リハビリ内容を反映させていく、QOL向上を図れるようにしていく。